

## R47b 銀河定数 $R_0$ 、 $\Theta_0$ の推定を目的とした電波位置天文観測について

須田 浩志 (東大理)、小林秀行 (国立天文台)、笹尾哲夫 (韓国亞洲大)

われわれは銀河系内の水メーザー源について年周視差、および固有運動を測定し、距離と運動の測定されたデータを蓄積することで銀河定数  $R_0$ 、 $\Theta_0$  を推定することを提案している。現在、この方法を検証、達成するために銀河面上にある星形成領域の水メーザー源を使用して位置計測観測を行っている。本年会においては、この観測の現状の結果について報告する。

観測している天体はいずれも銀河面上にある IRAS19181+1349(参照天体 TXS1922+155、離角 2.02 度) と 023.01-0.41(参照天体 TXS1829-106、離角 1.677 度) という 2 天体である。これらの天体は視線速度から太陽円よりも内側にあると考えられているが、近い方の解が正しいとすれば、現在の位置計測精度でも年周視差が計測しうる。使用している VLBI 観測網は VERA である。観測はこれまで VERA がメンテナンスで使用できない期間を除き本年一月より月に 1 回のペースで行っており、現在も継続中である。

また、本公演ではこれまで同じ目的で行ってきた IRAS19213+1723 の VLBA での観測の結果、および VERA による追加観測の結果にも触れられれば触れるつもりである。